

令和元年（2019年）12月19日

蔵王山測候所の地図と写真が見つかりました

【本件のポイント】

- 昭和18年9月から昭和22年9月まで蔵王山地蔵岳山頂で気象観測を行っていた「蔵王山測候所」の地図や写真が見つかった。
- 地図は、昭和21年—22年に登山などの観光目的で作成されたとみられる。
- 写真は、昭和19年に撮影されたものと昭和27年に出版された絵葉書が見つかった。



蔵王山測候所

【概要】

昭和18年9月から昭和22年9月にかけて蔵王山地蔵岳山頂で気象観測をしていた「蔵王山測候所」があったことが文献などから分かっていましたが、当時の地図や写真は残されていませんでした。今回、昭和21年—22年に作成されたとみられる地図、昭和19年に撮影された写真と昭和27年に出版された絵葉書から写真が見つかりました。

【これまでの経緯】

蔵王山の地蔵岳山頂で気象観測していた「蔵王山測候所」があったことが分かっており、昭和18年9月から昭和22年9月まで「蔵王山測候所」で観測されていた気象観測記録が山形気象台に残されていました。その観測データの解析から樹氷の衰退は蔵王山頂気温の上昇が原因と断定されました（中里ほか 2019年 雪氷研究大会）。

文献などによると「蔵王山測候所」は平屋建て（一部3階建て）とされており（平成4年 山形地方気象台「山形の気象百年」）、平屋部分が居住スペースで3階建て部分が観測棟と考えられます。また、「蔵王山測候所」の位置情報（北緯38度9分、東経140度26分、海拔1760m）は残っておりますが、当時の地図や写真は残っておりませんでした。

【蔵王山測候所について】

昭和16年11月、陸軍の航本参謀の主唱で航路上に山頂観測所を開設して気象観測を行うことになりました（昭和61年 中川勇編著 陸軍気象史）。蔵王山では陸軍気象部が蔵王山中腹に作られていた「蔵王小屋」を接收して気象観測を行いました。昭和17年12月、陸軍の委託を受けた中央気象台山形測候所は「蔵王小屋」に「蔵王山臨時気象観測所」を開設して予備観測業務を開始しました。昭和18年9月、蔵王山地蔵岳山頂に「蔵王山測候所」が竣工したことから、蔵王における観測業務は「蔵王山測候所」に移行されました。戦後、「蔵王山測候所」はGHQの許可を得て昭和22年9月まで（昭和21年10月から昭和22年6月まで一時中断）観測を行っていました（山形地方気象台「山形の気象」1962年 など）。

（お問合せ先）

学術研究院・山形大学認定 蔵王樹氷火山総合研究所
教授 柳澤文孝（環境科学）
電話 023-628-4648

【地図について】

これまでに確認されていた蔵王山測候所周辺の地図は、昭和26年に中央気象台が発行した「山岳気象報告」所載の略図(図1)のみです。一般の地図については、戦前・戦中・戦後を通じて、「蔵王山測候所」が記載された地図は見つかっていませんでした。

今回、地蔵岳山頂に「気象研究所」の記載のある地図(作図:堀修一、発行:郁文堂)が見つかりました(図2・図3)。昭和19年秋に、東北帝国大学の加藤助教授らによって「蔵王山測候所」の直下に蔵王小屋が移設され、「蔵王高層気象着氷対策研究所」として終戦まで稼働しており、地元の人は「蔵王山測候所」と「蔵王高層気象着氷対策研究所」を合わせて「気象研究所」と呼んでいたことから、「気象研究所」と記載されたものと考えられます。

この地図には山形高等学校の記載があります。山形高等学校は昭和24年に山形大学となっていることから、この地図は昭和23年より前に作成されたものです。また、地図では廃屋になった山小屋等の記載がありますが、「気象研究所」に廃屋の記載はありませんので、「蔵王山測候所」が稼働していた期間に作られたと推定されます。一方、「蔵王山測候所」は軍事施設のため、戦時中に印刷地図が作られたとは考えられないことから、発行されたのは戦後(昭和21年-22年)と推定されます。

作図が堀修一氏で発行が郁文堂となっています。地図に記入されている斜線や点に太細、濃淡が見えることから、大きな文字を除き、ほぼ全て手書きと考えられます。また、紙は薄手で、地図として携帯するには適していません。紙の入手が困難であった時期に作成されたと考えられます。一方、距離やバスで何分かかかるか、あるいは、山岳部にツアーコースなどの記載があることから登山などの観光目的で作られたと考えられます。

【写真について】

「蔵王山測候所」と記載がある写真は昭和30年2月に発行された雑誌「天気」に掲載された多田智氏が撮影したもの(図4)と、昭和37年に山形地方気象台が発行した「山形の気象」に掲載された写真(図5)のみです。いずれも、戦後に遠方から撮影したものです。山形地方気象台によりますと、これ以外に写真や資料は残っていないとのことでした。

昭和45年に山形県観光協会が発行した「山形県観光便覧」の表紙に蔵王山頂の写真が使われています(図6)。山頂付近に気象観測機器を取り付けていた支持棒(?)があるようにも見えますが、判然としません。なお、「蔵王山測候所」は昭和40年代には撤去されました。

今回、2種類の写真が見つかりました。

- (1) 昭和19年1月28日から2月4日まで東京の写真館の長澤壽三(利彦)氏と教員の平山栄伸氏はスキーと写真撮影のため、蔵王山を訪れました。蔵王山頂の写真は、昭和19年2月3日に平山栄伸氏が撮影した5枚の中の1枚です。写真に写っている2人は長澤壽三(利彦)氏と案内人(?)の織田求己氏と推定されます(図7)。昭和19年2月「蔵王高層気象着氷対策研究所」は蔵王山頂に移設されておらず、山頂には「蔵王山測候所」しかありませんでしたので、蔵王山山頂付近に雪の塊として見える建物は「蔵王山測候所」と断定できます。また、平山栄伸氏が撮影した他の写真から、かなりの人数の人たちが雪の蔵王山頂を目指して登山していることがわかります(図8)。なお、写真と情報は写真と情報は長澤壽三(利彦)氏のご家族(須藤明子氏・須藤江美氏)と平山栄伸氏のご家族(平山順一氏)より提供されたものです。
- (2) 絵葉書「厳冬の蔵王山 雪景(山形県・宮城県) 記念スタンプ入 MT.ZAO」に含まれている「お伽の国の気象観測所の粧い」です(図9)。「蔵王山測候所」の観測棟を見ることができます。1階の居住スペースを含め、大部分が着氷で覆われていることから、写真撮影時に「蔵王山測候所」は稼働していなかったと推定されます。「MT.ZAO」と英語が使われていることから戦後のものと判断されます。また、封筒に「第五種郵便」の記載がありますが、「第五種郵便」が開封便に使用されるのは昭和27年からです。昭和20年代末には着色された絵葉書が使われていますが、今回、発見した物はモノクロです。また、絵葉書に記念スタンプが付いています。蔵王は昭和26年に観光地百選に選ばれていますので、観光客向けに、昭和26年頃に撮影され昭和27年頃に発行されたものと考えられます。
なお、昭和28年には「樹氷」を最初に「White Monster」とよんだ絵葉書が出版されています。

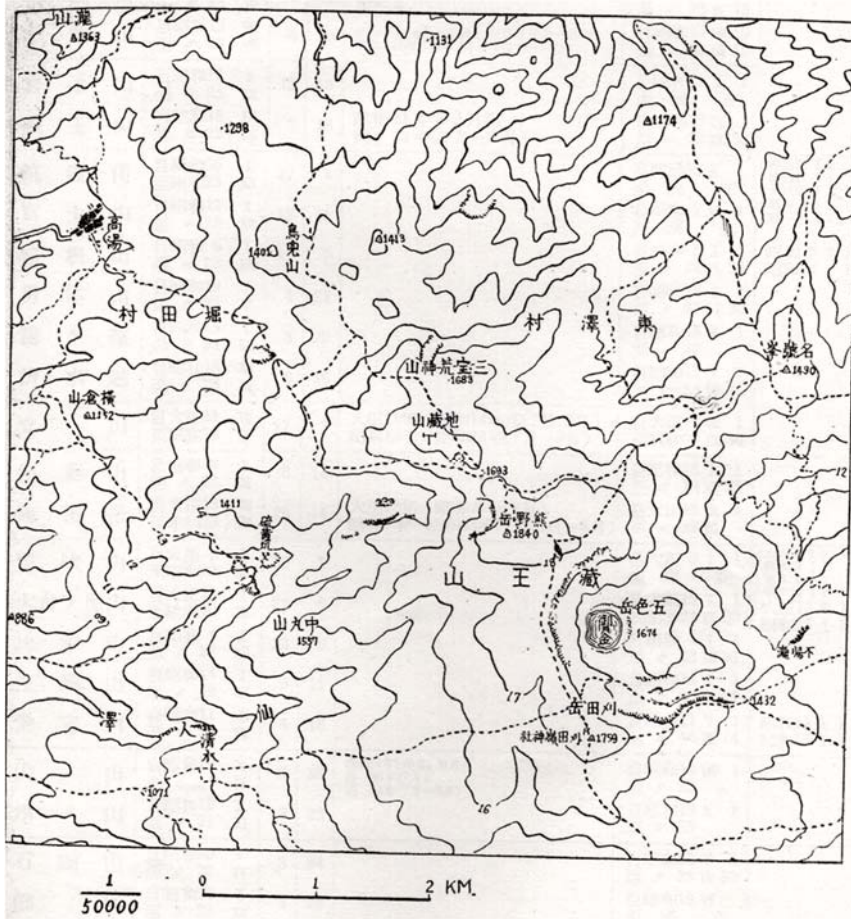


図1 「蔵王山測候所」周辺の地形図（昭和26年「山岳気象報告」）

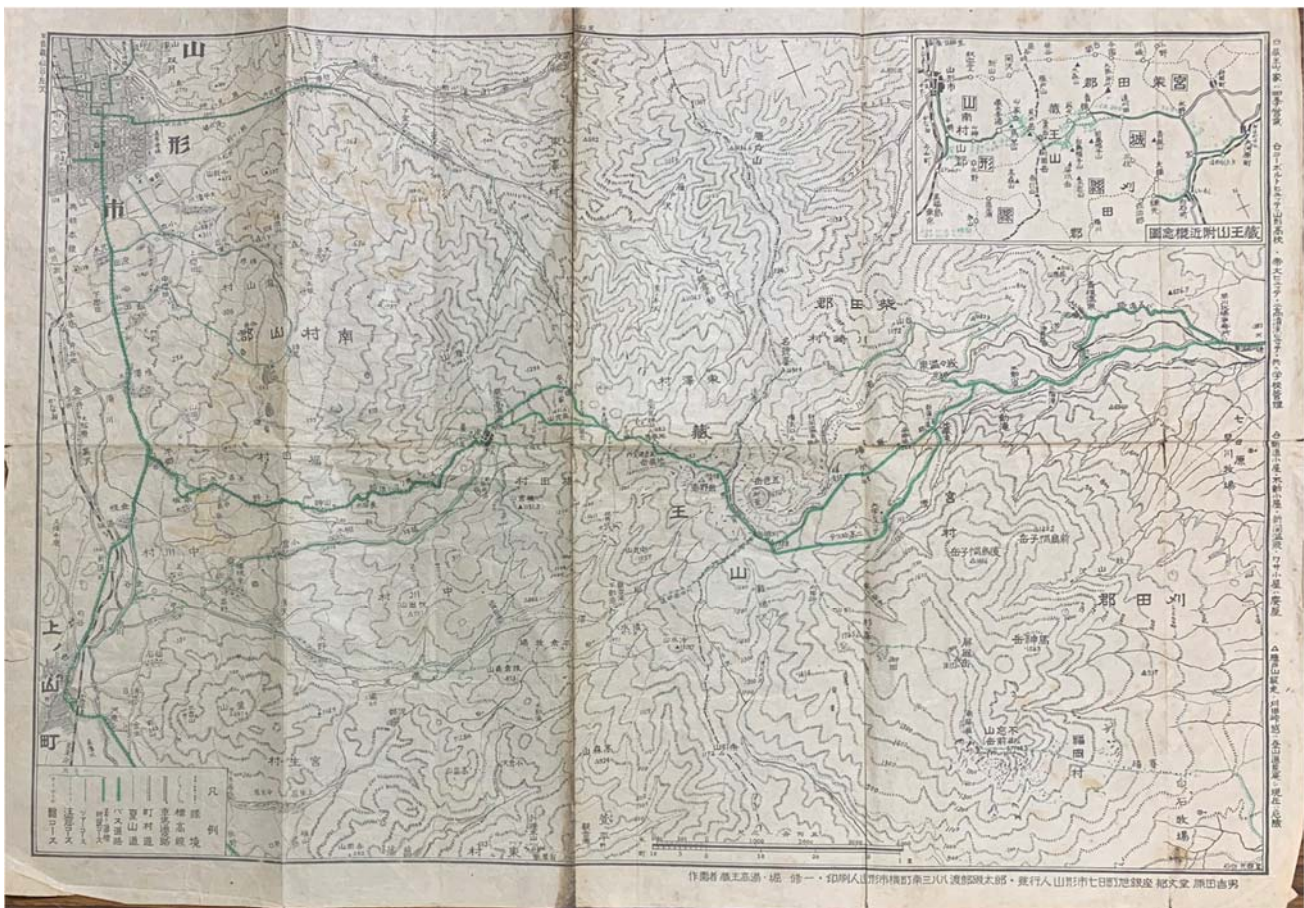


図2 山形市の地図（作図：堀修一、発行：郁文堂）

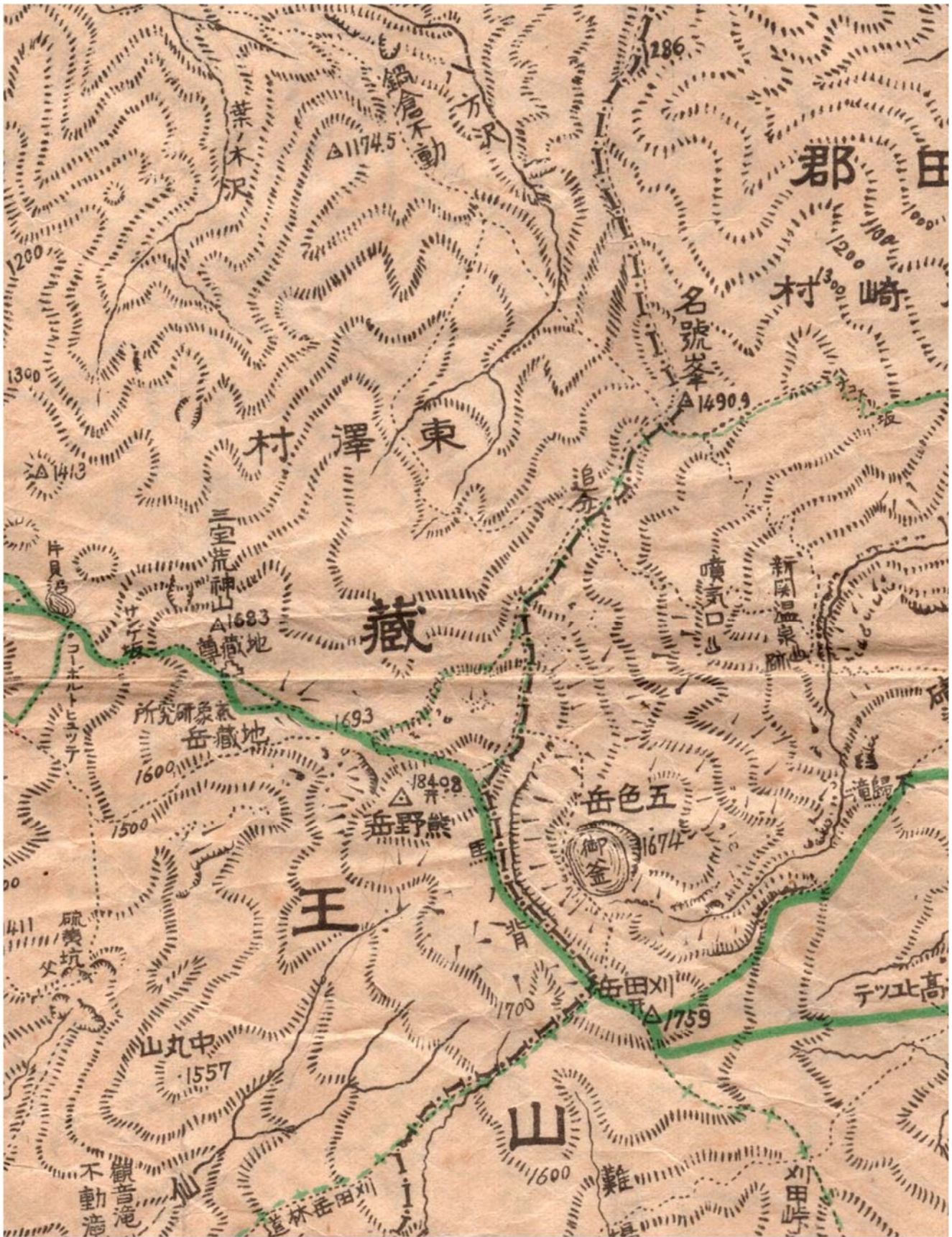


図3 地図 拡大 (作図：堀修一、発行：郁文堂)



蔵王の樹氷(地藏岳)

頂上に元の蔵王山測候所の建物が見えている。
(撮影 多田智, 30, 3, 17, 11, 1/100ペロナ2号)

図4 「蔵王山測候所」多田智氏撮影(昭和30年 「天気」)

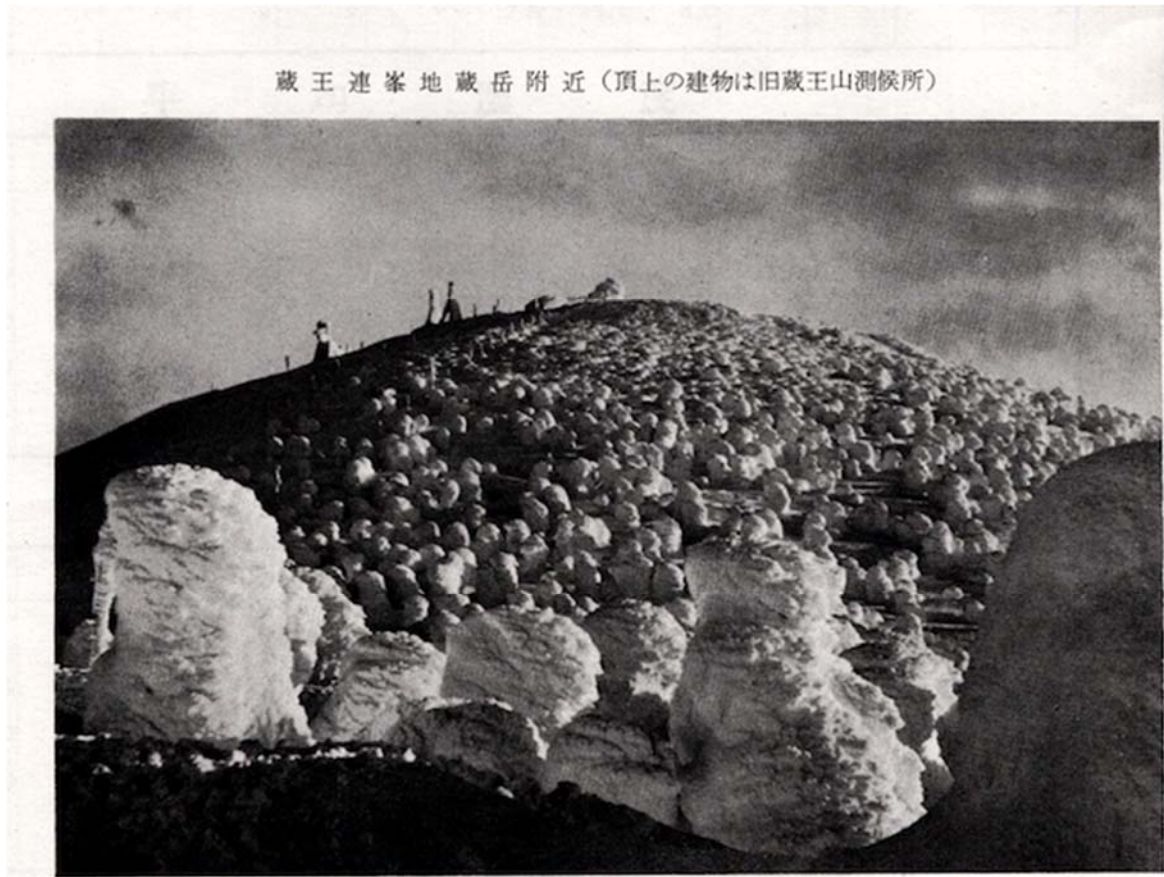


図5 「蔵王山測候所」（昭和27年 山形地方気象台「山形の気象」）



図6 「山形県観光便覧」表紙（昭和45年 山形県観光協会）



図7 「蔵王山頂付近」 (昭和19年2月3日 平山栄伸氏撮影)



図8 「蔵王山」 (昭和19年2月3日 平山栄伸氏撮影)



図9 絵葉書「厳冬の蔵王山 雪景（山形県・宮城県） 記念スタンプ入 MT.ZAŌ」の「お伽の国の気象観測所の粧い」